

# ゲキ×シネ「いのうえ歌舞伎★壊PUNK 蜚蜚峠（かげろうとう げ）」★★★★

2010（平成22）年1月8日鑑賞<試写会・梅田ブルク7>

作：宮藤官九郎  
演出：いのうえひでのり  
闇太郎（阿呆かと思うと滅法腕が立つ、謎を秘めた男）／古田新太  
天晴（あっぱれ）（この世に望みはないのか？クールに人を斬り殺す孤高の男）／堤真一  
お泪（るい）（闇太郎の過去を知る宿命の女）／高岡早紀  
銀之助（大事なモノをなくしても能天気な旅役者）／勝地涼  
サルキジ（江戸帰りでハクをつけた立派組の跡取り）／木村了  
がめ吉（25年前の忌まわしい事件の生き証人、飯屋）／梶原善  
立派（りっぱ）（声はでかいが気は小さい、立派組の親分）／橋本じゅん  
お寸（弟・天晴を溺愛する立派の女房）／高田聖子  
流石（さすが）先生（口ばっかりの用心棒）／栗根まこと  
もう一人の闇太郎／右近健一  
ウズラの親分／インディ高橋  
2009年・日本映画（ゲキ×シネ）・167分  
映像製作／イオシバイ  
配給／ヴィレッチ、ティ・ジョイ  
著作／劇団☆新感線、ヴィレッチ

## <やっぱりオリジナルはいい！>

私はゲキ×シネの大ファンで、『鶴籠城の七人〜アカドクロ』（04年）『鶴籠城の七人〜アオドクロ』（05年）『SHIROH』（05年）『メタルマクベス』（07年）『雛の森に棲む鬼』（07年）『五右衛門ロック』（09年）を観ている。劇団☆新感線が産んだ「いのうえ歌舞伎」と呼ばれる作品は、オリジナル性が高いのが特徴。それは、昭和三部作と呼ばれる『李香蘭』『異国の丘』『南十字星』を生んだ劇団四季のオリジナル志向と同じだが、そのテイストは全く異なるもの。それは、きっと劇団☆新感線を主催するいのうえひでのりのケレン味豊かな才能と、劇団☆新感線の看板俳優である古田新太や、その中核を担う高田聖子、栗根まこと、橋本じゅんらのキャラによるものだろう。

本作でプロローグ的に登場する蜚蜚峠における軍鶏（堤真一）をメインとした大阪弁ギャグや、仮装の男性器をぶら下げたまま歩き回る闇太郎（古田新太）のおふざけぶりは、一歩間違えれば今ドキのアホバカバラエティーの延長になってしまう恐れがあるが、さて本作におけるその位置づけは？

また、漢字力の低下が止まらない昨今、中里介山の名作『大菩薩峠』の向こうを張るような『かげろう峠』というタイトルを考案したうえ、「蜚蜚」という今ドキ誰も読めない漢字をあえて使ったのも一つのチャレンジ？さて、蜚蜚峠を舞台にどんなキャラが登場し、どんな奇想天外なストーリーが展開していくのだろうか？やっぱりオリジナルはいい！

## <一体どんなストーリー？ちょっとヒントだけ>

映画『ウエスト・サイド物語』（61年）は、ニューヨークの下町でうごめくベルナルド率いるシャーク団とリフ率いるジェット団との対立抗争を描いた名作。それに対して本作は、蜚蜚峠から数里離れたところにある宿場ロマン街における、天晴（堤真一）率いる天晴組と立派（橋本じゅん）率いる立派組とのヤクザ抗争をストーリーの軸とし、ロマン街に記憶喪失の男闇太郎が旅役者の銀之助（勝地涼）とともに登場するところからサスペンス的な物語が進行していく。

記憶喪失の男闇太郎の25年前を知るキーパーソンが飯屋のがめ吉（梶原善）だが、彼は25年前の大通り魔事件によって盲目になってしまったから、歴史の語り部としての能力は不十分。他方、今は金のために天晴の女中として働いているお泪（高岡早紀）は、かつての闇太郎の恋人。そんな2人がロマン街で再会したら、その後の展開は？

『ウエスト・サイド物語』ではジェット団のトニーがシャーク団のボスであるベルナルドの妹マリアと恋に落ちたため悲しい結末を迎えることになるが、本作で面白いのは、立派組の組長立派が天晴の姉お寸（高田聖子）と結婚・離婚を何度も繰り返していること。政略結婚によって敵対する勢力が仲良くなることは、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の専売特許ではなく、ロマン街でも同じ知恵が？一瞬そう思ったが、立派とお寸は祝言を100回も重ねているというから、こりゃかなり異常。

他方、天晴の提案どおり、闇太郎が領主を殺すことによって、闇太郎とお泪は晴れて夫婦になるというハッピーエンドで前半を終えるが、あちこちに波乱要素がいっぱい。さらに、後半には侍社会における権力闘争や新たな農民一揆の策動、さらにはホンモノ(?)の闇太郎（右近健一）の登場など予想もつかない展開が次々と続いていく。ラストは、きっと天晴と闇太郎の対決？そんなあなたの予想はほぼ妥当だが、なんのなんのそれだけではないスリルとサスペンスが満載。そんな波瀾万丈のストーリーは、あなた自身の目で。

## <全編のテーマは、「記憶喪失」と「自己再生」？>

本作のストーリー構成はかなり複雑。あちこちに伏線がめぐらされている他、後半には次々と新事実が判明したり、新キャラが登場してくる。そんなストーリー構成の全編を通じるテーマは、闇太郎の記憶喪失と自己再生？闇太郎がバカではなく、バカのふりをしているだけだということはプロローグ直後に明らかになるが、闇太郎の記憶喪失は嘘ではなく本当らしい。記憶喪失をテーマとした映画は数多いが、そんなテーマの映画はややもすると話がややこしくなり頭がこんがらがって行くことになるが、さて本作は？

そんなテーマで最も大切なことは、闇太郎はなぜ記憶喪失になったのかということだが、それが明らかにされるのは当然ラストに近づいてから。もっとも、闇太郎が記憶喪失を自分に都合良く活用していることは明らかだ。それは、闇太郎はほとんど人の話を信用しないにもかかわらず、目の前に登場した美女お泪（高岡早紀）からかつての恋人だったと告白されたり、子供に似合わないディープキスを交わしていたという話を聞くと、単純にそれを信じ込み、「俺はお前が好きだ」と言ってディープキスを迫ること。さらに、前半をハッピーエンドで終えることができるのは、「領主を殺せば、お泪と所帯を持たせてやる」という天晴の言葉に乗ったため。記憶喪失もこんな風に都合良く活用できれば自己再生に通じるかもしれないが、闇太郎がこれほど重篤な記憶喪失に陥ったのは、きっとよほどショッキングな出来事に遭遇あるいは体験したため。

ストーリーは後半そんな記憶喪失の実態解明に迫っていくが、そんな中で懸命に探られる闇太郎の自己再生の方向性とは？

## <キーワードは「蜚蜚峠」で待っている」だが・・・>

戦後大ヒットしたラジオドラマ『君の名は』では、「半年後に銀座・数寄屋橋で会いましょう」という春樹と真知子の約束が実現できるかどうか大きなテーマだった。また尾崎紅葉の名作『金色夜叉』では、「来年の今月今夜、僕の涙で必ず月を曇らせてみせる」という熱海の海岸での怒りに満ちた貫一の予言が実現するかどうか大きなテーマ。さらに私が小学生時代の1957年に大ヒットしたフランク永井の『有楽町で逢いましょう』によって、待ち合わせ場所として多用されるようになった有楽町のコーヒー店は大はやり？

こんな風に恋人同士では待ち合わせ場所が大切だが、本作におけるキーワードは「蜚蜚峠で待っている」。もっとも、そんな約束を交わしたのは誰と誰？そして、その実行は？それが、まだ初心な時代の闇太郎とお泪との間の約束であったことは前半の物語で明らかにされるが、後半にはラストに向けて再度「蜚蜚峠で待っている」というキーワードが登場するから、それに注目！さて、再度のそんな約束は誰と誰との間で？そして、その実行は？

## <『カムイ伝』ほどではないが、階級闘争の視点も十分？>

私は崔洋一監督の『カムイ外伝』（09年）を2009年9月22日に興味深く鑑賞したが、さて原作者白土三平流の『階級闘争史観』は今ドキの若者にどれくらい理解されただろうか？田中優子教授は2003年より法政大学社会学部で「江戸ゼミ」を主宰し、2006年4月より同ゼミと学科基礎科目の授業で『カムイ伝全集』を参考書に使う授業を行っていることは有名で、彼女の『カムイ伝講義』（小学館刊・2008年）は面白い本だった。つまり、『カムイ伝』や『カムイ外伝』の中には、学ぶべき階級闘争の思想がいっぱい詰まっているわけだ。

そんな視点でいのうえ歌舞伎のオリジナル作品である本作を観ると、ここにも侍社会における権力闘争（下克上？）の醜い実態や、関八州の介入をめぐる中央VS地方の構図などを垣間見ることができる。また、ヤクザをカッコいいと思っている人は少ないはずだが、あの時代のヤクザも突っ張ってはいるものの実はつらい職業なのだというのが天晴やお寸の「魂の叫び」を聞くとよく理解できる。さらにシヨックなのが、侍による農民支配の実態と農民一揆の悲劇。お泪の父親は農民一揆の首謀者として捕らえられ、他のリーダーの名前を明かさなかったため母親とともに殺されてしまったわけだが、それは江戸時代各地で散発的に起きた農民一揆がいずれもみじめに鎮圧されたのと同じ構図。

他方、酒と剣が強いだけでなく、天晴が意外な策略家だということがわかるのは、天晴によるロマン街の地域振興策の提案。地方分権や地域主権の大切は今も昔も同じで、昨今カジノによる地域振興の案がよく出されているが、天晴の立案による幕府の言いなりにならないロマン街独自の地域振興策は相当なもの。もっとも、それによって誰が得をし誰が損をするのが大切だから、皆さんもそんな視点でしっかり天晴の地域振興策の是非を判断してほしいものだ。

## <今、こんなアウトローから学ぶことは？>

2010年の年が明け、大学3回生の就職活動も真剣になってきたが、今なお就職先が決まっていない4回生も多いらしい。そんな状況下、リクルートスーツに身をつつんだ男女学生が会社訪問を続けているが、私が思うのは今ドキの学生はマニュアルどおりのまじめ人間が多いこと。つまり、どこをどう切り取っても同じタイプの学生ばかりで、ちょっと変わった目立つ学生＝アウトロー的な学生はどこにもいない。

それに対して本作に登場する人物はアウトローばかりで、社会にうまく溶け込んで安穩に一生を終えようとする人間はどこにもいない。かく言う私も、弁護士時代の一時期「主流派」を歩んでいたことがあったが、それ以外はほとんどが反体制的、一匹狼的なアウトローとしての生き方。私にはきっとその方が向いていると思うから本作への共鳴度が強いのだが、さて今ドキのまじめ一辺倒の若者は本作のような極端なアウトローをどのように評価するのだろうか？

大学や法科大学院の授業にまじめに通うのも悪くはないが、そこで学ぶことよりこんなゲキ×シネから、こんなアウトローから学べることの方が多いいのでは？もっとも、そのためにはまじめ学生諸君の主体的な視点が大切だが・・・。